



コロナ禍に「臨場感ある打合せ」が復活 プレゼンやブレストで、熱量まで伝わる 高音質スピーカーフォン×180°会議用ビデオカメラ

広告代理店として「顔を合わせての商談・打合せ」を大切にしてきた株式会社一広グループホールディングス。コロナ禍でクライアントやパートナー企業に訪問できなくなった同社は、以前のようにスムーズな商談・打合せを行うために、スピーカーフォン『Jabra Speak 750』を配備。さらに、2つの会議室にはそれぞれ180°パノラマ4K対応会議用ビデオカメラ『Jabra PanaCast』もあわせて導入した。

複数人が一部屋に集まって行なうリモート会議も急増 PCのスピーカーでは「聞き取りにくい」という問題が

コロナ前、商談のほぼ全てを訪問・対面で行なっていた同社。ZOOMなどのリモート会議が急増した当初は、設備が整っておらず、PC内蔵のマイクやスピーカーで通話をしていた。しかし既存設備では「聞き取れない」「複数人が集まるとハウリングする」など、様々な音の悩みに頭を抱えていたという。営業担当の久保田さんは、当時をこう振り返る。

「特に困ったのが、4~5人用のミーティングルーム（ハドルーム）に複数人が集まって外部とリモート会議を行なう際です。広告代理店という業種柄、営業、クリエイター、マーケターなど、各専門スタッフがそれぞれの知見から発言する場面が多々あります。なので、社員が集まっていた方が連携も取りやすく、都合が良い。しかし複数人が集まるとハウリングやミュートの外し忘れが頻発し、商談に支障を来していました。」

そこで一台だけ試験導入されたのが、スピーカーフォン『Speak 750』。これがりモート会議の質を劇的に向上させた。

「設定も簡単でハウリングもない。相手の声も聞き取りやすく『もう一度お願いします…』と聞き返すこともありません。お客様から聞き返されることも、ほぼなくなりました!」。

社内からの反響も大きく、すぐに『Speak 750』の奪い合いに。こうして『Speak 750』は全ミーティングルームに配備されることになった。



Company

Customer : 株式会社一広グループホールディングス

Website : <http://www.ikko.co.jp>

Country : 日本

Profile

テレビCM、ラジオCM、雑誌広告、新聞広告、WEB広告、交通広告など、多様なメディアを取り扱う総合広告代理店。1967年に株式会社一広として設立し、2017年にホールディングス体制へ。セールスプロモーションのための「一般広告」とは別に「採用広告&人材サービス」に特化したグループ会社を有し、販促と採用の両面から企業をサポートする。ネットワークの軽い100人規模のグループでありながら社内クリエイティブやデジタルマーケティングの専門チームを持ち、質の高いソリューションをスピーディーかつ最適コストで提案している。

Jabra Solution

Jabra Speak 750

- 商品番号 7700-309(MS)/7700-409(UC)
- 標準価格 ¥44,400(税抜)
- 想定使用人数 1~6名

Jabra PanaCast

- 商品番号 8100-119
- 標準価格 ¥84,000(税抜)





顔のアップだけのリモート会議では 熱量や空気感が伝わらなかった

同社は『Speak 750』の導入と同時に、2つの会議室に180°パノラマ4K対応会議用ビデオカメラ『PanaCast』を導入した。

「超広角で誰も見切れないという点が魅力でした。」

久保田さんは導入の経緯をそう説明する。しかし『PanaCast』のメリットは、それだけではなかった。

「全員の動きや表情が見えるようになって、会話がより自然になりました。これまでの顔のアップだけのリモート会議では、コミュニケーションとして不十分でしたね。特にプレゼンテーションやブレインストーミングで、それを痛感したという。」

「プレゼンやプレストは、その場の熱量や空気感の共有が重要。言葉以外のコミュニケーションが不可欠です。『PanaCast』なら全員の動きや表情をクリアに伝えられる。私も在宅ワーク時に『PanaCast』の映像を見る側を体験しましたが、同じ空間にいるような感覚で会議に参加できました。」

さらに『PanaCast』を『Jabra Vison』と連携させれば、ホワイトボードのリアルタイムでのストリーミングが可能になる。

「考えていることをボードに書いてサッと説明できる。これがすごく便利!」。

久保田さんは身振り手振りを交えて、こう付け足した。

「ジェスチャーやホワイトボードが戻ってきて、以前のような熱がこもったプレゼンやプレストができる!社員一同が絶賛しています!」。

臨場感ある会議が可能になった社内は、コロナ前以上に活気が満ちているようだ。



Jabra Speak 750の使用風景

採用活動の安全性と品質を両立 リモートなのに臨場感ある会議で学生と距離が縮まる

『Speak 750』と『PanaCast』の活躍の場は、営業やクリエイティブだけではない。採用活動においても大いに役立っているという。例えば新卒者向けの会社説明会。これまでのリモート会議ではどうしても学生たちと距離を縮めにくく、企業の雰囲気伝えることが難しかった。「けど『Speak750』+『PanaCast』なら、まずファーストインプレッションから違いますね」そう話すのは総務担当責任者の有賀さんだ。

「180°のパノラマ映像はインパクト充分。学生の皆さんにも驚いていただけます。会社として感染対策や働きやすさ改革を進めているということも、言葉で説明せずともパッと見てわかっていただけののも利点です。」

また、『Speak 750』+『PanaCast』なら社員たちのリアルな様子を伝えられるという点も重要だ。

「カメラ目線での一人喋りだけでなく、社員同士の掛け合いや距離感を見せられるのが大きいですね。互いが目を見て笑いあったり、ボケたりツッコんだり、そういった掛け合いをそのまま伝えられる。社員同士の仲の良さや雰囲気といった、言葉で伝わりにくい部分を伝えるにはうってつけです。オンラインのデメリットを感じることなく、学生の皆さんと距離を縮めることができますよ。」

コロナ前のような臨場感ある会話を可能にし、その場の熱量や空気感を伝えられる『Speak 750』『PanaCast』は、これからのリモート会議には欠かせないニューノーマル時代の必須デバイスと言えるだろう。



Jabra PanaCastの使用風景